

小樽ゆねすこ



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



小樽ユネスコ協会

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。

(ユネスコ憲章前文より)

ユネスコ会員綱領

- 心の中に平和の守りを固めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- 民族間の疑惑と不信のをぞこう
- 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

明日に向かう教育 ~ユネスコの視点から

小樽ユネスコ協会会長 丸田 謙二郎

地球は狭くなりました。この地球の片隅で起こっていることが、リアルタイムで世界に発信されています。

印刷媒体、映像等のマスメディア、なかんずくテレビの力が大きいことを改めて実感させられます。

さて、世界的には、移民問題、IS問題、北朝鮮問題、貧富の拡大、地球温暖化、化石燃料の枯渇、地球の表土と森林の喪失、飲料水や食料の不足、そして病院や学校も不足しています。これには、現在73億人の人口(中国13億5千万人~世界1位、日本1億2千万人~世界10位)の膨張が無関係ではありません。

また、国内に目を転じると、日本と韓国、中国、ロシアとの領土問題、辺野古の米軍基地問題、貧富の格差、改憲問題、女性に対する差別意識と労働問題等、国会での討論が連日報道され、今まさに国論を二分するような場面に遭遇していると言っても過言ではないでしょう。世界は、そして日本はどこに向かっているのか、向かおうとしているのか、ひとりひとりが真剣に考えなければならないと思います。

また、これまでにない少子高齢社会を迎えて、多くの改革、発想の転換が求められ、従来の制度上の改変に止まらず、教育の根幹に踏み込まなければならない状況にも直面しています。

さて、ユネスコは国連の一機関としてさまざまな活動を展開していますが、とくにESD (Education for Sustainable Development = 持続可能な開発のための教育) は、世界中に広がりを見せているユネスコの一大キャンペーンとも言え、小樽でも高島小学校がユネスコスクールの認定を受けて3年になります。

文科省もこれを重要課題と位置づけ、浸透させるべく様々な活動を試みようとしています。大学入試制度改革、2020年から始まる小学3年生からの英語の義務化は、まさに必然と言えましょう。

さらに、教育には、IT (Information Technology = 情報技術) やAI (Artificial Intelligence = 人工知能) の進歩を抜きにして論じられない側面があり、産業界への参入から教育界への導入は、もはや時間の問題となっています。記憶力に頼ることから、自ら考える力を養うことの重要性も高まってきています。

私達は新しい教育の何たるかを理解してこの重大な時期を乗り越えていかなければならず、ESDは教育の根幹にも結びつくものなのです。



第41回ユネスコ英語祭



ユネスコ世界文庫贈呈式



2015年度定例総会

第41回ユネスコ英語祭報告

英語委員長 吉田道夫

“Time flies before you know it.” (いつの間にか時は通り過ぎてゆく) という諺のごとく、節目の40回大会も終えて、今回は第41回目となり、2015年10月25日(日)、小樽市公会堂ホールにおいて、ユネスコ英語祭が開催されました。

出場者総勢38名(2名の特別スピーカーを含む)を迎えて、会場内も満席に近い状況の父母等聴衆にご来場いただき、盛会のうちに終了しました。

出場者は幼稚園児から高校生まで幅広く、学校数としても20校(幼稚園2園含む)を数え、今年も後志から2中学校(古平・黒松内)の出場がありました。

今回も開会式では上林教育長の英語でのご挨拶があり、同氏が就任されてからユネスコ英語祭に「教育長賞」を新設していただいたことも併せて考えますと、同氏の小樽の英語教育発展に対する並々ならぬ期待を感じつつ、私共もユネスコ英語祭にかかわって参りました。

今回の出場者の発表状況についてですが、暗唱部門は10名の参加、全体的によく練習されており、表情も豊かで立派なものだったと思います。

英語の歌は3名出場で、2曲ともきれいな歌声を聞かせてくれました。

スピーチ部門は23名の出場でしたが、発表のタイトルは、けん玉・ポケモン・私の家族・英語キャンプなど多彩な題材でした。

低年齢の子ども達は短めの簡単なスピーチが多かったのですが、やはり、文章を十分に理解して堂々と発表した子がいた反面、消化し切れないままの子もおり、大勢の人の前での本番はプレッシャーもあるので、日ごろの力をしっかりと発揮できない面もあるかと思われまます。



がんばりました！賞状と楯をもって勢揃い

また小学低学年と中学校以上の子との格差も、当然のことながら感じられました。

特別スピーチは、今回2名の方をお願いしました。小樽市教育委員会所属のALT(英語指導助手)デイン氏(ニュージーランド出身)のスピーチは、「ニュージーランドは地震対策について日本から何を学ぶべきか」と題して、小樽商大留学生のゼーレン君(ドイツ出身)は、「ヨーロッパにおける難民危機にかかわるドイツの役割」と題して、お二人ともきれいな標準英語でのスピーチで(要旨の通訳あり)、観客のみなさんは大きな拍手をもって応えていました。

また、今回は英語の歌を愛好されている主婦グループのゲスト出演があり、ハーモニーも美しくお揃いのTシャツで歌を披露し、会場を楽しい雰囲気でもんでくれました。

次年度に向けては、幼児から大人まで同一の審査基準で行うことの問題点や抵抗があることは事実なので、その点の検討をすること、開催日程を従前に戻して11月第一日曜日とすることで計画を進めたいと考えています。

さて次回42回目も、ますます児童生徒のみなさんが英語表現力の向上をめざして学習を続け、ユネスコ英語祭にたくさん参加して下さることを心から期待しています。

第41回小樽ユネスコ英語祭 入賞者一覧

賞名	部門	氏名	学校・学年
小樽ユネスコ協会 会長賞	スピーチ	熊坂夏音	小樽潮陵高校 2年
小樽市長賞	暗唱	三浦歩夏	古平中学校 2年
小樽市教育委員会 教育長賞	暗唱	大門 遼	松ヶ枝中学校 3年
国際ソロプチミスト小樽 会長賞	暗唱	斉藤 紀歩	望洋台小学校 1年
北海道新聞社賞	暗唱	大谷 くるみ	黒松内中学校 3年
STV賞	暗唱	宮下 瑚雪	黒松内中学校 3年
努力賞	歌	大橋 美月	西陵中学校 3年
努力賞	スピーチ	池上 詩乃	潮見台中学校 1年
努力賞	暗唱	伊岩 渕風	古平中学校 2年



いっぱい練習してきました!



審査員の先生方



ゲスト出演 英語の歌でハモります…

「英語祭」思い出すまに

理事 外園 知代

最近、上林教育長による英語のご挨拶が恒例となったり、出場者から参加料を徴収したり、審査席をステージ正面に設定したり…と、少しずつ変化(進化?)しつつ今回41回目を数えるユネスコ英語祭ですが、多くの皆様方のご理解とご協力によって、これまで長く続けてこられたのだと思います。

私はこのところほぼ毎回英語による進行係として携わってきましたが、少し最近の思い出を記してみようと思います。

出場者はみな真剣そのもので、発表は完成度の高い水準に達している人も多く、審査員の先生方も採点に頭を悩ませているのですが、中にはほほえましい幼児の英語の歌があったり、奥様方の歌では美しいハーモニーを聞かせてくれたり、40回記念大会では、プロの歌手とのお仲間が元気な歌声のパフォーマンスを披露してくれるなど、楽しいひとときもあり、やっぱり「FESTIVAL」のタイトルが相応しいのかなと思います。

「アナと雪の女王」を素晴らしい衣裳と振り付けで歌ってくれた幼稚園児もいたり、小1の女の子がネイティブと同じ発音を発しているのには舌を巻いたりもしました。

北海道日米協会の「高校生サマーセミナー」で、「ユネスコ英語祭」で何度も入賞している女子高生と再会し、「英語祭の卒業生(?)」がその後も英語学習に精進し成長している様子を見ることができて嬉しく思いました。

また、黒松内から参加した中にいとこの子供がいて、思いがけず会えたり、英語の得意な若い女性たちに司会のアシスタントを務めていただいたり、英語祭を通じて色々なご縁や絆を結ぶことができました。

小樽市のALTや小樽商科大学の留学生達は、シャープな視点から特別スピーチをしてくれます。母国の紹介では異文化に触れる事もできますし、難民問題を含む国際情勢についてもリアルに語ってくれます。

英語祭に参加した子ども達が、英語や国際社会に興味を持ち、勉強を続けて将来海外でも活躍してくれたら…どんなにか嬉しいことでしょう。

これからも英語祭でのたくさんのお出合いを楽しみにしています。

ユネスコ活動と私

会員 小林 裕子

小樽ユネスコ協会に入会させて頂いて10年余り経過しました。気持ちがあってもいろいろな事が重なり、あまり活動に参加できず、協力できない事も多くて申し訳なく思っています。

今まで参加した活動の中で特に印象に残っているのは、2007年のユネスコサマースクールで、蘭島川「水辺の楽校」の体験です。

蘭島川の生態には私も驚きましたし、子ども達と同じ目線でワクワクしたものでした。

おそろおそろ川の繁みに入る子、小魚などを追い込んで虫アミでつかまえるコツを覚えてもらい川の中で格闘、その後グループ毎に捕れたものを入れ物に明けて、獲物の数や種類を競いました。

笑い声が飛び交い、振り向くと、女の子が両手の指先や顔中若草色に染めて……その正体は、かわいい?青ガエルの大群! 根気よくつかまえては張りつけたとみえ、子どもの奇想天外な発想に感心したのをついこの間の事のように思い出します。

サマースクールは、参加者の安全な2日間のために気苦労も多かったけれど、子ども達の楽しそうな姿を見ると元気が湧いてきたものです。

もうひとつは、知床でのユネスコ全道大会です。素晴らしい大会に参加させて頂きました。

自然が大好きな私にはとっておきの思い出、それは、エクスカッションでの記念植樹です。

汗をかきながら、「植えさせてくれてありがとう」とつぶやきながら植えました。

土を掘り起こし易いようスコップなどは研ぎ澄まされていて、準備に携わる人々の苦労と、知床の自然を守ろうという地元の思いを、少しは理解できたような気がします。船に乗り海上から眺めると、知床の自然の素晴らしさがさらに窺えました。

観光ツアーとはひと味違う体験ができるユネスコの大会「さすがユネスコ!」との思いを強くしたものです。

これからも、ユネスコで新しい何かをみなさんと一緒に体験できるといいなあと思っています。

第6回「カレンダーリサイクル市」

～日めくり、人気のヒミツ～

環境委員長 丸田孝子

1月8日、小樽のユネスコメンバーと協力者総勢10名が、札幌かでの2・7で行われている、札幌ユネスコ協会を主体とするカレンダーリサイクル市に参加しました。テレビでも紹介されている恒例の催しで大変な賑わいでした。ただ、今年はカレンダーの集まり具合が、例年の6割程度とか、少ない中でも、小樽ユ協への協力をしてくださりました。

小樽での販売の為に、ダンボール数10箱に入れてバスに積み込み、小樽市総合福祉センターに運び入れました。運転手さんも含む男性の力と6回の経験から能率よく作業ができ、翌日からの販売にそなえた下準備をしました。

さて今年は、1月9、10日の2日間は小樽市総合福祉センター4階で、11、12日の2日間は長崎屋で「小樽ユネスコカレンダーリサイクル市」を開催しました。

卓上カレンダー、手帳ダイアリーのコーナー、文字のみカレンダー、絵柄のものは選び易いように、世界遺産、風景、動物、乗り物、イラストや絵画、お花などのコーナーを設けて並べました。それぞれに大小様々あり、内容豊富で充実したカレンダー市となりました。

開店時刻前からお待ちのお客様もいて、ユネスコのカレンダーリサイクル市の理解が広がっていることを実感しました。

「日めくりはありますか」と毎年のように「日めくりカ

レンダー」の希望がたくさんあります。市販されている値段を知るとユネスコのカレンダーリサイクル市の値がわかるというものです。私たち会員は心がけて日めくりカレンダーを知り合いにお願いし、また、札幌で調達してこの日のために用意しました。いつもより多くの方々に喜んでいただくことができうれしく思いました。

「日めくりカレンダー」をよく見ると、日にち曜日の他、十干、十二支、二十八宿が載っています。それぞれの日にその日の言い伝えや、風習が書かれています。たとえば、「婚礼、船乗り、造作に吉」とか、「移転に大吉、衣類に裁断すれば寿命をます」と書かれている日もあります。さらに金言というか箴言が出ています。「知って行わざるは、知らざるに同じ」とか、「美しい笑いは、家の中の太陽である」とか。

職業や付き合いの重要な情報であり、縁起の良い日、相応しい佳き日を選び、物事を整えていく様子が見て取れます。朝、まず、日めくりをめくること、それが、一日を万端うまく運びますようにとの決意や祈りの儀式でもあるかと思えます。日本各地の祭りや火災予防週間などもあり、人々の慎ましくも豊かな、安全な暮らしを支えている一端が「日めくりカレンダー」の人気の元と改めて感じました。

今回は福祉センター会場両日で200人からの来場者があり、ご協力くださいました方々に厚く御礼申し上げます。

カレンダーリサイクル市で子どもたちに未来を!

理事 田澤真弓

第6回カレンダーリサイクル市は4日間にわたり前半2日間は福祉センター4階、後半2日間は長崎屋1階公共プラザで開催しました。

北海道新聞に掲載されましたので、どの日も盛況でしたが特に長崎屋1日目は会場設営1時間前から客が押し寄せ、「日めくりが欲しい」「あれはないか?これはないか?」「もっと字の大きいのが……」等、せっかく前日遅くまでかかってきちんと整理仕上げした箱を勝手に開けられ、何が何だかわからないうちにスタートして、てんやわんやの状態が2日間続きました。

今年は日めくりの寄贈が例年の5倍以上あり、日めくりの到着を待っている間の売り場はサロン化し、入荷すればしたで、ジャンケンで奪い合ったりと、それはそれは賑やかでした。「定着してきたなー」と毎回かかっていた私のうれしい感想です。実際に売り場では「いつからやっているの?」「毎年この時期なの?」「来年はいつから?」こんな声を聞きますと疲れも喜びに変わります。

毎年これらのカレンダーは札幌ユネスコ協会のご協力によって分けていただくのですが、特に今年の小樽への

搬入は札幌ユ協カレンダー市開催のさなかでもあり、札幌自体が例年の6～7割しか集まらない中、もらい受けてきたので申し訳ない気持ちでいっぱいです。と言いつつ「同じ絵柄ばかりでなく違う種類の欲しい」「犬や猫の欲しい」「字が大きいのが……」「大きすぎないのがいい」などと我儘を言いながら小樽での販売のために売れ筋を選んでる私です。

4日間で得た益金の用途についてですが、「ユネスコ世界文庫」として市立図書館に毎年新刊本を寄贈します。「世界寺子屋運動」では昨年2月カンボジアの「ロハル寺子屋」が完成して同国で13校目となり、高校生のスタディツアーが訪れたと報告がありました。また東日本大震災ユネスコ就学支援奨学金は、被災によって親を亡くし経済状態が悪化した家庭の子供たちに毎月2万円の奨学金を3年間給付する取り組みで、収益からの寄付が大変役だっています。その他ユネスコ活動になくてはならない財源なので、会員の協力で開催し、市民の皆さんには買っていただくことでご支援をいただき、今後も続けていきたいと思っています。



福祉センター会場 (写真提供 小樽ジャーナル)



長崎屋会場 (カレンダーが見えないほどの人垣！)

日本ユネスコ国内委員会 委員の任にあたって

事務局長 安 達 久美子

昨年(2015年)12月1日付けにて、ユネスコ国内委員会委員のお役目が、降って湧いたように私の身に降りかかってきました。

国内委員会は、「ユネスコ活動に関する法律」に基づき、文部科学省に設置されている機関で、60名以内の構成。教育科学文化の各分野の代表、学識経験者、衆・参議員、そして地域的なユネスコ活動領域代表(9名、全国のユ協から。私は北海道の代表として)となっており、私の選任された分野は原則として1期のみ(3年間)の任務となります。

我が国が、敗戦後の占領下、国連加盟に5年も先んじて1951年UNESCO加盟が実現したのは、先達による民間ユネスコ運動の高まりが国際社会に好意的に理解されたからであり、その経緯からも、我々民間ユネスコ活動に携わる者が日本ユネスコ国内委員会の一角を占めてきたのだと思います。

ユネスコ活動が、広く市民の中に浸透普及することは、ユネスコの理念である“国際平和”具現への道のひとつであり、そのための足腰ともいえる存在が民間ユネスコ団体なのです。

だれもが民族・文化・宗教などの違いや多様性を認め合い、地球市民として、未来の問題を共に考え協力して解決の道を探っていかなければ、人類の未来は無い、と言われ続けてきました。その意味でもUNESCOの役割は重いと言わざるを得ません。

各地域で多彩に続けられてきた民間ユネスコ活動が、UNESCOの有効な後押しとなり得るよう活動を更に充実させ、また、若い世代に確実に引き継いでいくためにも、歩みを止める訳にはいかないのです。

私達の一步は小さいけれど、営々と繋ぎ続けてきた一步です。来年は民間ユネスコ運動発祥70周年、この歩みをみんなで未来に繋げましょう！

市立小樽図書館 ユネスコ世界文庫

カレンダーリサイクル市収益金から今年度も市立図書館へ新刊図書15冊を寄贈、これまでの累計は1,794冊となりました。

世界に視野を広げるのに役立つ図書の充実を願って、昭和49年12月開始された図書寄贈ですが、初期の頃は、会員の蔵書の持ち寄りによる寄贈の時期もあったとか。最近では、数は少ないながら新刊図書を贈り続けてきました。

図書館司書に選択を一任していますが、市民のニーズや社会情勢等をふまえて、毎年硬軟取り混ぜ、スタンダードなものからユニークなものまで色んな視点から取り揃えてくださいます。

今年の寄贈本は右記のようなものです。たくさんの市民の皆様手に取って利用していただけることを期待しています。

書名一覧

- ◇森と山と川でたどるドイツ史(岩波書店)
 - ◇ヨーロッパから民主主義が消える(PHP研究所)
 - ◇日韓外交史-対立と協力の50年(平凡社)
 - ◇大世界史-現代を生きぬく最強の教科書(文藝春秋)
 - ◇イスラム化するヨーロッパ(新潮社)
 - ◇一気にわかる!池上彰の世界情勢2016(毎日新聞社)
 - ◇費用・技術から読みとく巨大建造物の世界史(実業之日本社)
 - ◇日本、遙かなり(PHP研究所)
 - ◇中東特派員はシリアで何を見たか(株インプレス)
 - ◇メソポタミアとインダスのあいだ(筑摩書房)
 - ◇行くぞ!ロシナンテス(山川出版社)
 - ◇旅ガール、地球3周分のときめき(廣済堂出版)
 - ◇世界でいちばん貧しい大統領からきみへ(汐文社)
 - ◇恋する世界一周(イカロス出版)
 - ◇北海道 すてきな旅CAFE-道央・道南編(メイツ出版)
- (以上15冊)

書き損じハガキ回収ご協力 ありがとうございました

—ユネスコスクール高島小学校—

当協会の要請を受けて、高島小学校では書き損じハガキ回収に取り組み、2月29日同校にて寄託式を行いました。

「これらのハガキを役立てて下さい。」とのメッセージと共に児童会会長の五十嵐君から回収ボックスが丸田会長に手渡され、丸田会長からは、日本ユネスコ協会連盟の「感謝状」が贈られました。

児童会の5名が同席しての寄託式でしたが時間の関係で回収の取り組みの様子などを聞くことができず残念でした。

校長先生は、「学校だより」で回収ボックスの写真と共に保護者に向けたPRをして下さったとの事でした。

地域のユネスコスクールとユ協との連携として、今回初めて高島小学校のみなさんにご協力いただくことができました。今後更に他の学校へも広げていけるよう取り組んでいきたいものです。(回収ハガキ238枚、テレカ2枚、切手2枚)



あなたもユネスコの仲間

◎ユネスコ活動って？

第2次大戦終結後、国連にUNESCOが設立され、善良な隣人として互いに平和な生活ができる世界をつくるため努力しようと「ユネスコ憲章」が定められました。その理念や精神に共鳴した人々によって、1947年、世界に先がけて仙台から発信されたのが、市民の立場でUNESCOを支援していこうという民間ユネスコ運動です。

民間ユネスコ団体は、100ヶ国に約4,000あり、現在、日本国内には286協会、道内には20のユネスコ協会があります。

◎小樽ユネスコ協会

北海道では、1948年に札幌で、翌49年に小樽ユネスコ協会が道内2番目に発足しました。以来、全国のユネスコ協会と力を合わせて世界寺子屋運動や東日本大震災子ども基金の継続的な支援に協力し、英語教育やコミュニケーションの分野にも力を入れて取り組んでいます。

◎書き損じハガキ…は何の役に立ってるの？

民間ユネスコの主要な活動である世界寺子屋運動支援のため、書き損じハガキや未使用テレカを寄付していただき、企業の協力で現金化して寺子屋の建設や学用品の購入、大人の職業訓練などに使われます。

通年回収しています。ご協力をお願い致します！

◎いつでも入会できます。

・年会費 4,000円(正会員) 5,000円(維持会員)
10,000円(賛助会員)

・ホームページ <http://www.unesco.or.jp/otaru/>

・e-mail otaru@unesco.or.jp

・問い合わせは TEL 54-2075 安達

大会参加報告

第49回北海道ユネスコ大会は、テーマ「ESDのさらなる推進～あなたの毎日が、未来になる」のもと、10月17、18日の両日室蘭で開催されました。

会場は今回も2002年と同じ、室蘭プリンスホテルでした。室蘭ユ協は特に近年青少年に対する様々なユニークな活動をしています。ユネスコスクール・ユースフォーラムでは、清泉幼稚園、登別明日中等教育学校、海星学院高等学校、室蘭大谷高等学校等、若者の発表に、出席者は大いに感動を覚えました。なお基調講演は「持続可能な地域の役割、産・学・官の連携について」と題して、地元室蘭工大地域共同研究開発センターの片石温美准教授によって行われました。蘭扇などと言う言葉は耳なれませんでした。室蘭の蘭とその形から地元のホタテの養殖を意味しています。生産量全国の3割を占める北海道の水産業を取り巻く状況は、農業と共に今大きな問題になっています。

エクスカージョンは地球岬を始め、室蘭の景観を楽しみ、室蘭の歴史も学びました。なお懇親会には、来賓の室蘭市長を始め多くの参加がありました。

来年度は恵庭ユネスコ協会が担当。今回の小樽勢は吉田、安達、丸田の3名でした。帰りの車窓から、室蘭が戦争で襲撃されたことを物語る要塞が目に残り、北海道にも小樽を含め、空襲があったことを思い出させてくれました。昨今はすっかり風化してしまっていますが、改めて、戦後70年の日本の平和の持続を噛み締めてみたいものです。

(会長 丸田謙二郎)

あとかき

3月26日、北海道新幹線開業という新しい歴史に突入しました。

しかしながら、新幹線はようやく函館に乗り入れたばかり。北海道は広く、我々が函館まで辿り着くには、新幹線で函館から東京に行く以上の時間を要します。このお祭り騒ぎには乗り切れず、周囲の人々の反応もさまざまです。新幹線北海道到達で、どんな未来が動き出すのでしょうか？

さて小樽ユ協会報第40号をお届けします。「読み易く、わかり易い」を編集の中心に据えて、作り続けてきました。ユネスコ活動に興味をもっていただければ幸いです。

広報委員 田澤真弓・安達久美子

会報「小樽ゆねすこ」第30号

2016年3月31日発行

小樽ユネスコ協会

事務局 小樽市花園5-10-1

小樽市教育委員会 生涯学習課内